

繪本
勘豆臣勲功記

五編

三

4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8



繪本豊臣勲功記五編卷之三

目録

秀吉ひでゆき原信劔はらののぶとら依久よひひさ間信盛まののぶとら

属あづかり智服ちふく因州いんしゅう

飛井受謀とひいけうぼう欺森うそもり下中村依しもなかむらゐ

属あづかり秀吉ひでゆき遠計とんけい

繪本豊臣勲功記五編卷之三

秀吉將大軍攻圍鳥取城

屬 清正介候

鳥取落城吉川經家自害

屬 馬野對陣



繪本豊臣勲功記五編卷之三



江戸 八功舎 徳水刪補

秀吉原信訪永間信登属智服因州

徳鶴雖以... 威風... 千謀万略... 野に振... 中園境... 分外の... 皆自分... 豊臣記五編卷之三

秀吉

信義を

享し

佐久間が

寔居の

高野山小

訪ふ



素ハ信實秀吉と嫁妹て軍事政通妨げしこと遭次ありしが秀吉
 心は憎むことなく。今信とて訪ふこと實に大仁の舉止なり。然れど
 以て荒る者亦若ハ妻收妹妹ハ之歸り。中國が勢の軍南にまづ同別也
 平法せんと同年八月下幹とありて。一万ふみ舟人を率へ。但馬の國
 に出渡りし。遠國の守護職出石の城主山名右衛門佐照を以て過はる
 五月降参りて。將は柴が旗下不馬せし。柴は親隊を命じ。決も。周情の國
 へ黃向ふ。秀吉の誠意山名大將大補を國と歸拔せんと。一族は山
 名照豊に頼りしを。然るも山名を國へ收毛利家不歸屬し。人
 質を舟を出し。これを心惑ふと思定まらぬ。家宰殿下出陣守中
 村但馬守も。最愛の児と質とて。毛利家へ出置け。主人を誦め
 くと。將柴への降参を拒むる由を。秀吉に告ぐ。これ不同意して。固く兼拔せし
 る。秀吉これに聆りし。怒り。謀慮をめぐし。忽地心とりの之史と
 得く。同國麻野を攻んと。遠城中に毛利の旗下之澤之節た。東門
 を森を厚くして大將とす。其印森脇月夜元佐。木暮を誘ふと。しる
 家一子餘人別帳守り。山名を圍む。びに家宰殿下。中村柴海が
 人質を兼拔在り。秀吉預て遠陣を。潛兵を投ぐ。聆置たれば。在也。小
 麻野へ推進せし。如稻像麻と推提圍之。城兵の氣を折入ら。是に同
 喫小城を揚げ。暫時小軍提る威勢を。小城を大不怖。是に慌
 忙し。崇くと。程と。使者をつら。山名を圍。主従の人質
 を。て。返し。る。城を一個も。害せず。て。命を助け。歸國せし。人。備遠別
 と。背く。小。お。つ。の。投。炬。り。七。四。方。小。火。を。う。け。城。を。の。こ。り。焼。殺。え。返。轉
 成。聆。人。と。偶。遣。た。れ。バ。城。兵。これ。不。恐。怖。して。之。澤。を。夜。を。知。れ。は。り。山

豊臣評話 巻之三

名を後分人質を城より出して秀吉へ是非なく送遣したるは秀吉
 密に歎惋なり。約束の如く國を解城を死せしめしければ蘇生するた
 意地しつ。藝州當ては歸里なる。秀吉山名が人質を率て。鳥取の城小
 推進せ。城を破る。秀吉統を放棄。おわし軍威を視して。城の中へ使者
 と向ひし中。山名は代々天下の右長。其家連綿とて相續せし。道
 幸毛利家小せをめらる。勝旗下小歸馬して。終に當城を守持ら。是
 よりとせること先祖一射し。面目と失ふの事あり。天下のためあしむ
 ざる。若家の恥るとはあり。今速に降参。何れを言ふ。肉府一言快
 して。當國の吉慶とる。むす。備前小利とよし。て。これ速ひを取
 へ。市時小城と攻墮し。國中平均とせらる。それの事。比を國の
 息女。あしびに。長家の後類。人質とて。右方にあり。送遣れ有。せ。小

依て。料簡をむすむ。糸は色河りと。使者の河小を國とせ。廣下中村。鷲と
 びし。麻野。城と。所し。人質。い。む。む。む。と。勇氣。も。折。け。を。國。の。た
 や。降。参。の。心。生。り。て。廣。下。中。村。小。澤。ト。なる。小。柴。友。人。の。た。め。も。め。毛利。家
 より。莫。大。の。恩。賞。を。奉。た。ふ。より。偏。小。女。質。へ。荷。擔。して。山。名。の。人。と
 小。名。を。り。束。縛。あり。と。侮。卑。し。め。可。憐。人。の。料。簡。を。れ。今。秀。吉。一。降
 参。て。不。如。意。な。む。と。人。質。に。心。を。れ。せ。し。備。前。降。参。を。と。せ
 一。と。森。下。中。村。密。談。して。人。豊。國。と。降。参。せ。たり。これ。ふ。ら。く。山。名。の
 息。女。來。下。城。の。後。類。を。その。後。小。人。質。と。て。秀。吉。が。陣。中。に。留。置。既
 に。歸。陣。する。小。澤。と。く。麻。野。の。城。小。鳥。井。新。十。右。衛。門。と。り。て。あ。じ。め。これ
 小。山。名。が。人。質。を。扶助。せ。たり。

此處井新十右衛門、山中麻野物の一族なりしが、秀吉降参後、後
 雲物のおひき、遠遊せし、毛利家におき、格と離れ、
 うらむしては、秀吉が鳥取を去るに陣中に逃れ、あせ
 秀吉が鳥取を去るに陣中に逃れ、あせ

其外國中の城も、名士と

龜井謀を
奉て森下
中村等を
欺詐
楠十次



らさる計策を執りてんと時を考へ推軍の使者に渡さるるやう。
 命のおもむき業りぬ。然りといつども人質の義に私小料めが。志ざ
 播州へ訊合せ。秀吉の下程に任せらるる。俺們不冷當國と守得る
 ことおもひもよう。秀吉も亦上の方に事あるとて。腹なれば。若海を
 救ふも。脅力及む。若海も。若く人質を様へ。姫路へ。五事に帰らんこと。
 此上も。ひた本望なき。二五日を待せ。又。汎使の。帰次。責を。事の。さう
 ひひ。さう。さん。と。返。答。せ。て。城。實。に。お。思。ひ。その。後。と。保。て。七。名。士。と。様
 め。秀。取。の。城。へ。退。返。を。飛。舟。の。磯。邊。の。城。兵。小。謀。を。謀。合。せ。二。日。を。う。り。を
 して。後。ま。つ。麻。野。城。の。法。を。と。百。有。餘。人。擇。出。し。これ。を。城。印。に。た。お
 に。伏。せ。置。ま。つ。磯。邊。の。八。百。餘。人。を。麻。野。より。四。五。町。隔。ち。進。軍。の
 邊。に。埋。伏。さ。し。め。然。し。と。捕。へ。し。人。質。の。うち。豊。國。の。息。女。の。を。活。安。

表下中村の人質の。會。悉。く。首。を。刎。又。自。秀。取。へ。使者。を。送。り。人。質。の
 様。し。ま。う。と。ぞ。れ。バ。明日。更。取。ま。ま。つ。る。ぞ。刎。く。若。海。が。帰。路。に。接。し
 二の國を除くを。人。と。言。送。る。表。下。中。村。これ。ら。の。伴。と。送。交。し。曉。る。夜
 遅。し。と。待。候。三。先。人。質。を。返。收。せ。と。二。千。餘。人。を。率。從。へ。麻。野。小。引。り。て
 先。搦。磨。漆。の。國。を。閉。を。衛。兵。を。遣。け。急。に。城。外。小。引。進。人。質。採。せ。と
 言。寄。る。城。中。候。より。準備。せ。し。人。質。の。り。と。て。多。の。騎。輿。次。中。に。つ。外
 へ。昇。り。し。それ。に。繼。ぎ。て。二。百。餘。人。城。門。を。出。て。款。小。引。ひ。去。來。れ。受。取
 る。べ。し。と。ふ。よ。人。質。率。に。命。じ。彼。騎。輿。を。う。け。ら。せ。表。下。中。村。近
 傍。て。吾。子。の。を。事。ある。顔。を。見。ん。と。橋。の。扉。あ。く。れ。ば。斯。の。い。ふ。徒。兒。書。做
 の。顔。は。と。る。由。急。發。願。さ。る。こと。お。や。さ。る。ぞ。嗚。と。悲。嘆。の。聲。を。曉。号。に。た
 音。の。伏。を。一。聲。に。起。り。救。百。挺。の。槍。流。と。筒。矢。撞。て。表。礼。し。と。敵。の。奈。が。ど

に懐没けぬ事とつひ。悲嘆に沈む機舎るれば一足才子奉侍を慌
 忙に執効しつる。表下出陣も無念にあそひ。隊伍を整へて戦ふ人と。
 曰く所許運返す。自軍の兵を集めんと。若後に指揮を執る機舎。破る
 の城を八百餘人。崎の左右より。改て登。縦横を碍に葛起し。ふいと慌てし
 る取勢。取らぬ遠も伏兵ありと。既而上下の逢もつた。まはつ。人ぞ
 仆つ放走するに。表下今の脅力なり。付故に退さるふ。飛舟も十分の
 捷を以れば。長途を量と自軍を哀め。活用するこそ執りたれ。遠路小
 帰陣もまづ。一時。舟時に周情の地を退去。播州。姫路へ。帰るる。斯く表
 下中村。倭ハ。彼軍の勢を破。此法をせ。慕び。推進来て着る。他軍はい
 つ。う。退去して。新。ぶ。え。げ。城門外。表下中村の児女子。皆。屍。成
 喬く。磔に。棄。その傍。小紙。懐を。樹。垂。く。う。と。大文字。小。相傳の。主君。意。

天下と歎く。不運の罪人。枝葉とつ。とも。斯の如く。行ふものなりと。記せ
 一。う。も。表下中村の悪人。表。おの。ま。が。罪。と。願。ひ。河。ひ。の。怒。り。ある。ひ。を
 怒。し。も。敵。と。獲。と。括。収。め。請。う。て。退。死。多。り。備。亦。飛。舟。新。十。舟。を。取
 の。歌。と。漫。く。と。歎。く。を。國。の。息。女。を。侍。ひ。姫。路。小。歸。つ。之。南。竟。と。言。つ。を
 ら。う。に。若。た。れ。バ。荒。不。守。こ。を。を。驗。無。舟。が。所。行。と。感。賞。し。息。女。と。名。
 に。通。与。ら。る。あ。を。を。國。喜。悅。か。さ。り。な。し。昔。兎。が。活。命。せ。し。こ。も。命。荒
 洲。の。仁。信。を。り。ぬ。と。泪。は。哽。び。く。恩。を。謝。す。其。う。後。の。あ。三。日。を。事。小。船
 暮。と。さ。さ。せ。ら。る。が。秀。吉。又。も。國。洲。の。蹊。蹊。と。得。と。听。し。む。ら。に。表。下。中
 村。事。と。籌。て。毛利。家。う。り。守。將。と。迎。へ。有。取。城。と。せ。ら。う。う。り。今。遮。て
 攻。起。る。こ。も。事。成。統。せ。ぬ。朝。と。受。り。別。小。涼。智。の。を。謀。と。之。夫。一。股。賊。の
 片。家。に。密。計。を。教。授。し。高。船。五。艘。と。行。舟。を。と。れ。く。に。行。高。に。お。扮。

せ。金銀穀米候に齎らせ若狭と通りて因幡小針を。米粟麦豆ハハ
 ふもさうらり。其餘の穀類もやうらび。去糧もろくそものを買集む
 以その價ハ日來に倍して買めり。由是百姓ハつふ及んば。敵下中村山
 口候も。計略と六秋毫知れ。利欲不遂して意の随く軍用金に
 りんと程之を糧過ると販拂ひ。款びたりとて。純頑なれ。然バ相葉ダ調
 畧と候ハ。次第に買集む。初春の奥に到る。後ハ。又般の大船小
 刺目たれば。今ハ事々や足ぬとく。欣然とく帰帆申りたり。明是ハ天正
 九年の春。毛取城中の祈あり。吉川元春と為と撰び一族たりける。
 吉川武部少輔經家とて。大將たり。森脇若狭守。松尾安右衛門
 山形筑後守。約枝加賀守。丹下新之清。武永。石原玄清。丹后。又右衛門
 長和。三舟。左衛門。長尾。佐濃守。野田。左衛門。尉。候。相率合む。一子餘人

二月廿六日。毛取州の地を發行し。海上風帆意の如く。一を欲し
 て。着岸なり。固州。毛取。小入城。これ。を。敵下中村。か。わ。ひ。小。狭。喜。し。者
 川。勢。の。その。外。に。郷。民。們。を。率。率。奉。法。も。相。合。七。子。餘。人。と。も。り。く。内。外。さ
 ら。く。穿。城。せ。り。秀。吉。郭。と。略。り。も。患。バ。度。み。か。く。款。圍。と。扼。ん。と。計。議
 と。二。丈。一。伯。州。の。自。方。南。條。ハ。鴨。ガ。許。一。密。使。を。遣。す。隨。分。圖。殺。く。毛。利
 家。と。親。合。り。て。私。妨。ま。し。親。危。に。及。す。那。响。ふ。も。巧。是。若。速。地。小。加
 勢。ま。と。一。と。東。遣。ま。その。意。趣。ハ。伯。州。の。款。強。な。れ。バ。毛。利。家。固。州。を。救。ひ
 が。こ。一。體。令。援。を。ま。と。つ。と。も。急。な。る。事。ハ。な。り。た。れ。バ。右。左。の。際。に
 毛。取。城。中。を。糧。盡。く。固。窮。ま。す。と。計。設。く。勝。困。者。と。儲。取。不。走。を。止。じ
 流。言。り。さ。せ。たり。中。り。ハ。秀。吉。六。万。餘。兵。を。ま。と。り。固。州。境。一。出。馬。り。毛
 取。城。を。壓。後。是。た。ち。小。伯。州。ハ。おも。む。さ。て。毛。利。の。梢。寨。を。會。攻。破。り。



秀吉の深慮
鳥取城中の
米穀を惨々
糶締る



屯に雲川へ延投るさより、頼に不談を思ふ。飛路にかゝる出軍
 の準備ありたる由、謀系遠く毛利の国者、遠流言を听し、
 執て返して経伸せり。そのさるるに筑前守丹波祖馬の自方に命じ
 毛利方より鳥取へ去、糧運絶せざるや。海路を断り、警固をこしむ
 細川公終り、補原孝の去年より丹波の國に伐の命をうけ、彼方に到り仁成をりつ
 國人とまじり、さるる小百姓等との往來に、つぎ一國平治を志すに、高松の吉原一連、系を
 定むるに、由も長原長河、た小丹波の國と細川を、孝のさるるより、これより、孝の田舎の城に居
 住し、孝の海と警固れ、ことをおむ、小早速これ城居たり
 然れども鳥取の城中、小の大将、經家政事を執り、徳人救を頼、其鑑
 るふ、七十餘人籠り、又孝を糧へと懸、檢をれば、九向の食、継をる小足
 ら、經家大に警顧あり、快、雲川へこれと告ぐ、孝糧運絶を、謂、投け
 せども、頼と計し、ことなれば、かどろ通路のほることあり、人や、國窮、改、并に
 逼りぬ、然れども、經家、自將を、並に、警固の、之、吏と、る、う、ん、の、と、鳥、取

城より一里と隔り、丸山と云ふ、一堆の丘、小城と筑、之を、當國武士、素和、日
 本之助、海城の、極、屋、周、防、ち、佐、木、三、平、右、衛、門、依、り、命、ト、一、千、餘、人、た、お
 け、山、取、丸、左、衛、門、と、は、つ、と、は、つ、て、丸、山、の、城、と、お、も、せ、り、備、又、右、衛、門、小、早、川、を
 雲、伯、石、の、防、禦、さ、る、鳥、取、城、へ、の、去、糧、運、送、事、を、八、方、に、保、持、て、發、動、お
 かり、さ、る、さ、る、に、細、川、日、人、を、海、上、に、通、路、と、さ、ま、さ、り、げ、た、れ、諸、方、の、分、撥
 詞、を、毛、方、為、流、小、齋、齋、と、り、秀、右、將、と、听、し、り、も、時、こ、を、宣、け、是、先
 然、バ、不、日、に、進、發、を、と、と、と、安、去、境、へ、と、と、と、併、へ、同、来、六、月、廿、五、日、七、の
 調、軍、と、成、たり、たり

秀右將、大軍、攻、圍、を、取、城、屬、清、正、年、候

博物志に、ある、不、飢、の、法、も、太、平、の、世、に、傳、ふ、こ、を、力、と、恃、む、我、國、小、の、能
 ま、で、飲、食、を、さ、れ、バ、出、軍、場、と、い、ふ、と、人、強、又、金、銀、の、山、を、と、も、飢、て、飲

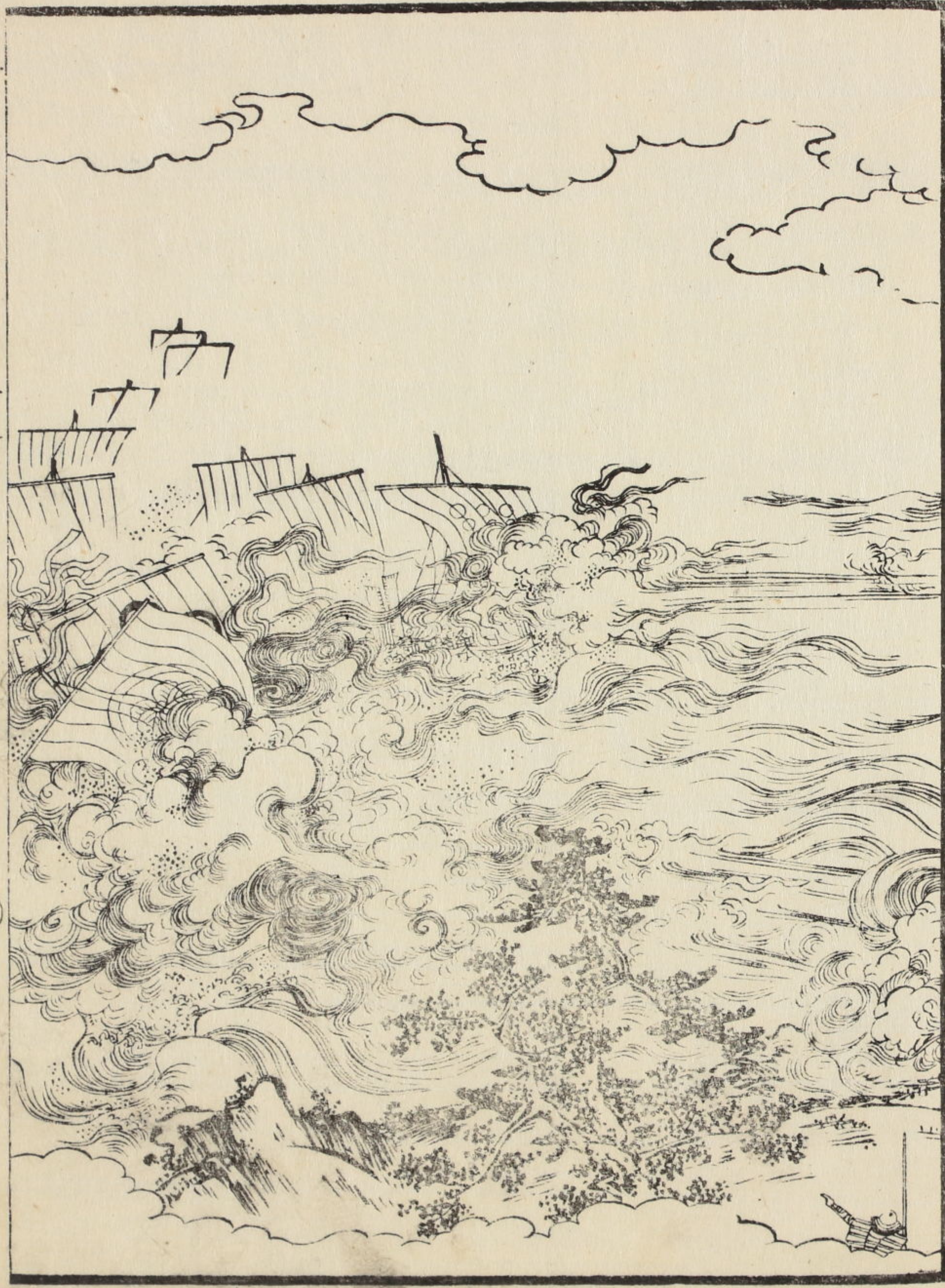


玄中丸
 帝釈山本陣を安在
 秀吉管絃を奏以



本陣よりなる帝釋山不能樂の輩を召集め管絃系竹を妙絶く秋
となく豆となくあふさまるに自方の諸兵士これがさあふ軍中の聲向を
掃除す。それ小將友多取の城中に八雲糧運糧のたよりを待ども更
に消息ひたところへ羽柴が大軍進来里。鏖くうて提圍を軍令感
細りつたれ。細魚橙款のころあしき恐怖の思念絶ざる機舎め。帝
釋山の陣中小笠鼓琴笛和洞して。風のまふく聆りふぞ城者們を
食懐小面を肴あそせ肝膽を悩ます。秋氣を碎さ傷も百珍止るまなく。
故郷の老親妻子を懐出。心情秋と共小沈く。ること陣詰に聆傳ふ。
子房が嘯く洞箫も。斯や何ん人懐古苑希ちのわくまう。朝暮とさう
を陣中あそ。遊戯宴樂の模様と倣しめ。事密に警固をまうく。
時々刻々に順檢せり。然る小吉川經流の屋まといふも屯小出さ。敵下

中村と呼をけ秋鼓をえんと勧めたれとも。徳病未休の書みれば一日遠夜と
徳をば。坐をがう流し。食するのそり。備系吉川元春の固別の援をさ
さんともれとも。伯剛よりなる南條小鴨。勇と奮ふく礼務しけま。これた
め小遮らま。出馬の事意に任せ。形とらると。然るも。取の無難の
後地み。刀攻にひる。うら地をさ。糧と給りて。幫助人との。新日人た
海門射有地右を倣に命を傳へ糧と運糧せさせられとも。上流とさ。方術
ひたさ。八雲。船を擗扶を。落び。麻尾。足。氏。部。を。命。して。十。四。艘。の。艦。艘。小。糧
船。又。般。と。後。小。附。く。漕。を。く。窺。傍。里。晴。夜。に。誘。く。入。ら。ん。う。ら。る。と。涉。野
流。を。清。これ。と。く。初。り。四。色。方。如。川。の。船。大。將。松。井。康。之。に。指。揮。ま。り。に。て。
頼。て。值。一。砲。南。中。兵。船。鼓。船。こ。と。く。く。激。塵。に。烈。爆。を。ま。盾。を。ま。清
長。政。船。推。出。し。敵。船。の。さ。う。突。殺。し。た。れ。ば。康。之。氏。部。強。勇。な。れ。とも。涉。野



浅野の
 弥兵衛
 命を奉て
 中國の
 兵糧船を
 撃破る



松井が猛威に折れ終に斃死せしむるに也。殘兵の食た有り得ば貞とつ
 して溺死したり。これによりて城中を援助する者糧あらずなりければ將軍
 次第に困窮して今も糧盡き盡果歩渡の彼軍百姓に八日十日のみ
 穀を食ひ起居の力もあらずれば歩由れぬ隙外也。七歩由るとはより
 のふ焼び柵障まで遠出て藁の束を柵木の根を穿。其苦辛淡の味淡
 えろもだ。嚙嘗る者と糠糟の像く。なるも糧の根子を人食はさむが味
 玉と捨ふあし。激しづ小配し。食して皆討の飢を凌ぐふ藁下飯の平
 日の如く糧乏し然とも頼び日く三時ふ飲食しるが。彼軍の餓死する
 と。彼軍の心や傷め。諸將に洵て三度の食と二度ふ喊させ一度の命と
 彼軍に施与へ。辛さ月日成曉く昏して。既七月より九月ふより八十餘
 日かその際。毛利家よりの援もな。一炮も放ちもせ。提圍もなれ

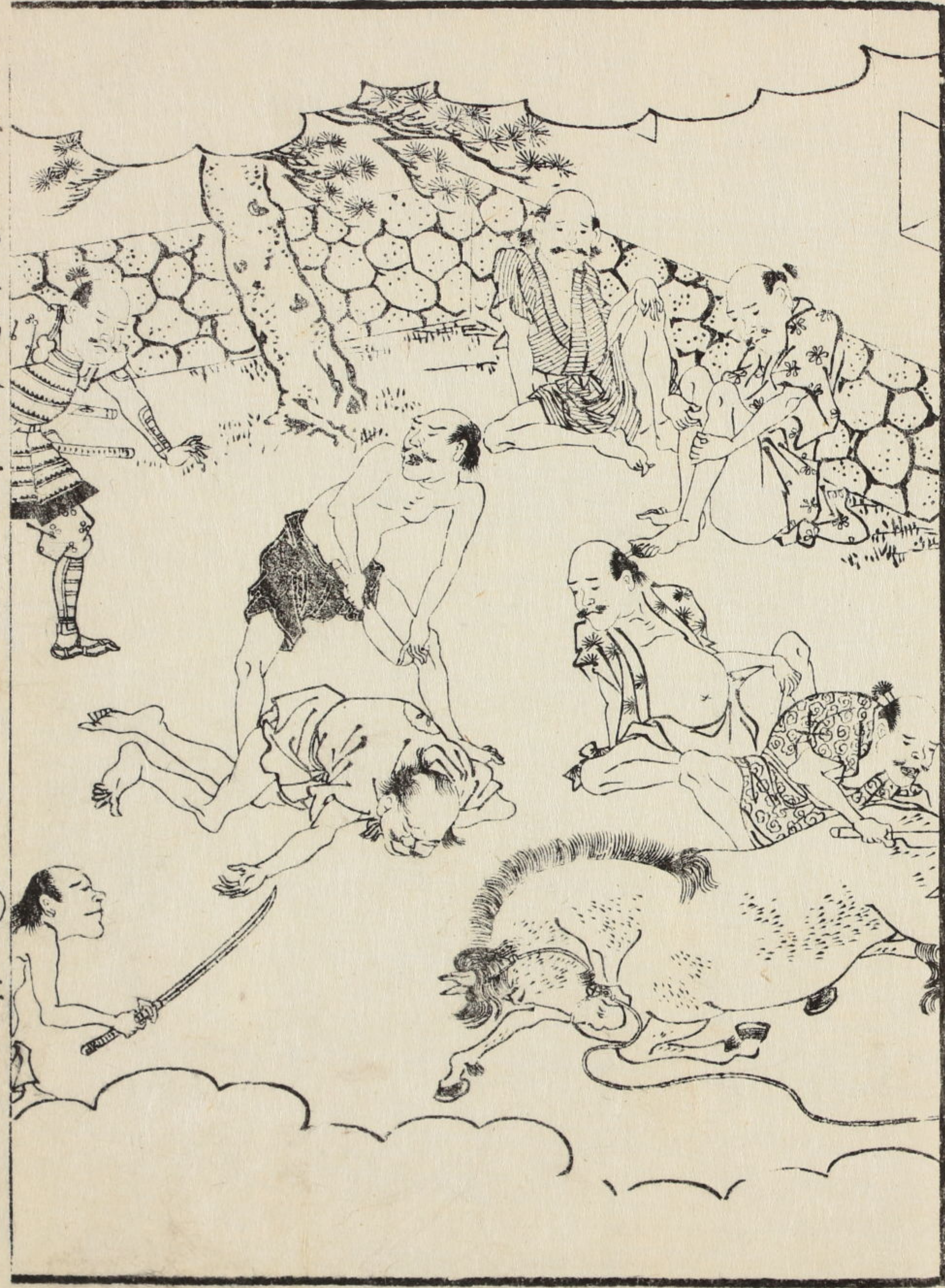
之なれば城無ハ唯我ふく。死んふととのをわひ中り。事か起れと結在に
 是。耐ふ好柴荒茶も秀春。加藤序之助清正。蜂須賀小六家政。又十希城
 密に招き。各個を勞すといひるや。方僅遠城中を糧盡く定めく困
 窮せり。頼て鍊や。潜泐せとく。後路の峯に攀崎。城内の有を
 せ沈惣来と。命を被り蜂須賀加藤。膝許く具敷。各逆者十人
 をり。身軽小旗令て率從。弓矢齎らせ沈くと。後路の峯に潜登を熟る
 に奪取の城内。事な河く六と時。刻。寨樓小登りて遠を。馳を在
 るともさあ。加藤。蜂須賀。後路より騎り来る。後腰く大將。鍾家に若
 たりし。備に款。城内の虚實を試人と。斥候を。伏せ。て設提
 せ。指揮に。士。倣。起。強。兵。百。有。餘。人。後。路。の。山。の。事。段。下。埋。伏。あ。し
 て。密。に。候。加。藤。清。正。蜂。須。賀。家。政。諸。事。無。知。び。とい。ども。傑。氣。を。雙。又



加藤清正
蜂須賀家政
大勇を以て
鳥取城を
熱観を

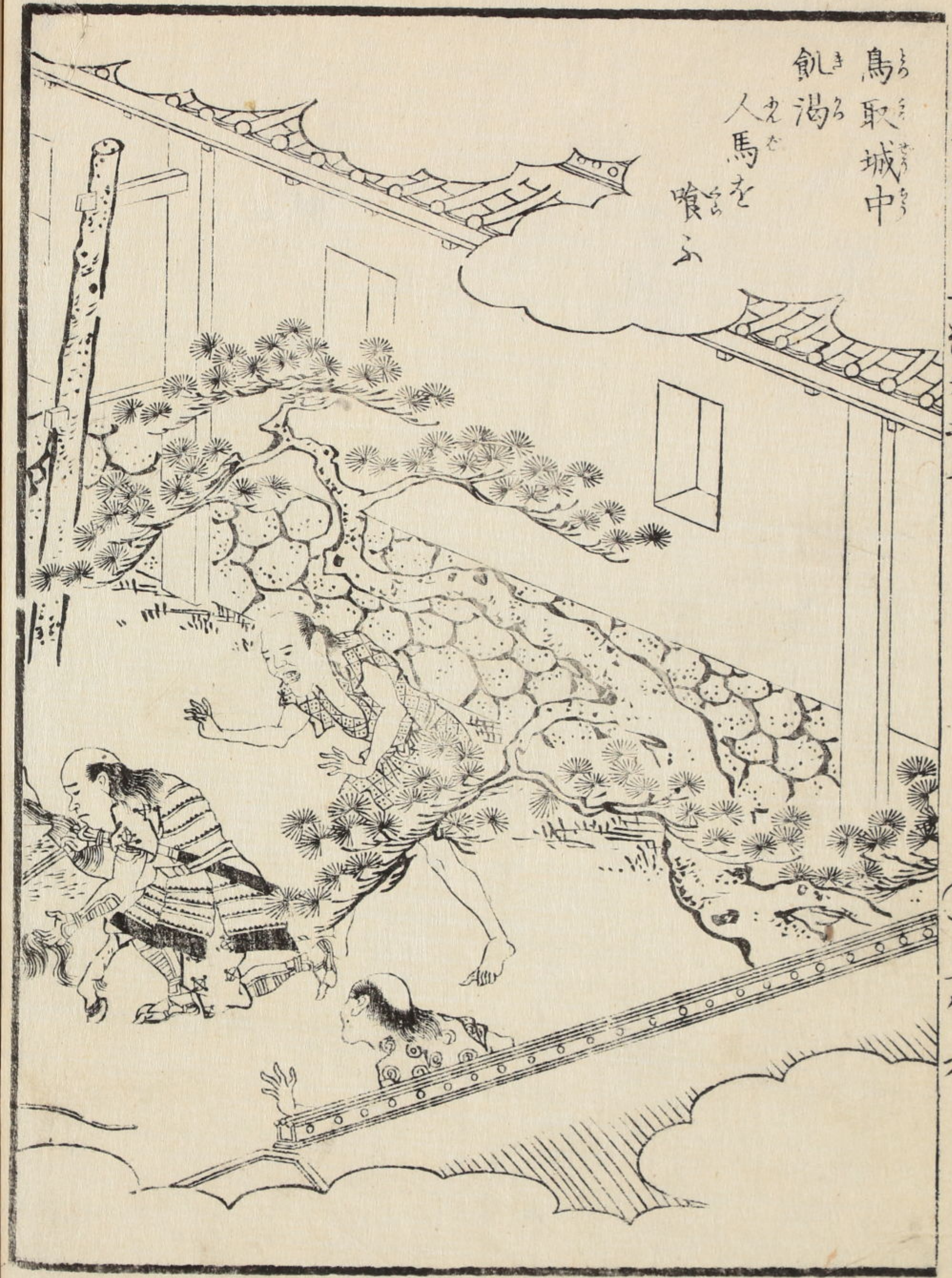


東國記五



鳥取城中
 飢渴
 人馬を
 喰ふ

東國記五



の繞勇みれば崩山破石も怖き得び。藤蘿に涉り樹石を廻ひ。幸ふとて
 施頂小登り。心静に城中の動靜虚実と得と視沈し。異氣もゆく亦之
 の間道を下る。薄草あひまゝる叢陰小一炮をくハ暗号小や埋伏し
 たる城を奪一度に吐と發起つ。加夜時湧か致驚とせし。大徳不款もこ
 しも發がむ。城鬼同然の弊漏く武者目小物視せんとし。未だ猛氣
 の主従二十餘人奮突裂振ゆさる不まらせ。溪間ハ泥濘斬落はかふ虎
 之物清正ハ槍の大本と背楯小取弓小矢搭へ散く小近進る款と六七騎石
 例左願子射作くたるが。矢後をればち刀拔をぬ。頭脚面背刀のまゆく
 薩藩菁葉と屠るが像く。殺虚くくと砍て繞る。あま子従ふ本村并と。叢本
 みんどの暴強者純虎の砂石を飛まか如く。噢叫んで戦ひたる。これ小方
 らで塔頭賀自後。四角八面に斬あせ。二百餘人の城を奪。途せうく

子く敗走を小六家政務小察て。逃蒐人むると清正制止し。車と好ま
 せ歸小ぬ。段提する首七ハッ。後者小持せく山路をい。此陣當て
 走歸る。城を捕も人救と量し。暮び追出たりし。ども。新く小見え。子ハ
 ちと空しく。曠野に退返を。加夜時湧か致驚とせし。大徳不款もこ
 り城中困苦の所見う。途中埋伏の軍の始終提する。城がも。是出し
 て仔細小言状。し。どに秀者や。感佩なり。褒賞ゆつく。歌つ
 是なり

奪取藩城在門他家自害馬野野對陣

座して食を山海をも奪し。ふと。鯢鵬の譚に似れども。方僅も
 取の城内ハ。飢渴殆究し。竟して。十月央に。釣るころ。本を。奪。奪。子も
 喫盡し。半を。殺。百姓を殺して。その肉を。軍食と。餓する鬼が。出生

食と貪喫に著しく。後ハ大將の名馬を偷出して屠食ハ秀吉に
 送られ傳とて。詳小所探り。誠ハ毛利輝元とて。め吉川元春。小早川
 隆景。仁徳信義の大おられ。幕下の諸士とて。熟教はるものハ。
 忠義の道と學ばせ。またるものハ。仁烈の意と原かりし。不道と學
 く。誠りたるもの。遠遭ち取の牢城也。影を忠義を全し。て。ち。か
 るこそ温諒なれ。今ハ罪なれ。決平百姓。餓寒に苦し。め死しむ。ハ。最
 不便なる。憐みれば。救ひく。是人と懐起。堀尾茂助。吉晴。一柳。市。助。重。盛
 五人と。とて。使者と。なり。ち。取の城。月。當遣。ち。大將。隆。景。に。傳。お。れ
 たる。中。既。ハ。七。月。の。初。日。首。冬。の。今。日。に。ち。る。年。を。後。に。對。陣。し。と。
 決平の勞。成。功。の。さ。れ。バ。如。く。使。く。和。睦。を。遂。て。城。を。搦。ち。大。將
 ち。め。牧。野。の。雜。率。也。天。地。不。替。く。助。命。を。て。中。小。就。て。山。名。の

家。隆。森。下。中。村。依。く。本。極。谷。ハ。主。君。不。仇。さ。る。遂。成。な。れ。バ。助。命。さ。る。こ。と
 ち。い。ぐ。と。其。餘。ハ。嘗。て。害。さ。る。多。く。鐘。聲。慈。意。の。意。何。く。も。可。卑。れ。し。あ。ふ
 和。平。し。て。退。城。あ。ま。と。伸。く。ふ。ぞ。徑。家。ち。と。く。沈。吟。し。つ。堀。尾。一。柳
 以。著。つ。る。や。身。不。屑。な。れ。ども。武。將。少。猶。ち。取。城。小。將。と。て。幕。下。中。村
 依。以。自。害。こ。せ。切。な。れ。命。を。活。舒。へ。な。不。面目。ハ。本。國。一。端。り。て。衆。人。不。逢。る。と
 ぞ。將。士。ら。の。牢。城。さ。る。不。稀。く。ぬ。時。ハ。使。平。小。代。里。切。腹。さ。る。こ。と。本。意
 ち。れ。人。生。百。年。を。持。ち。し。た。ふ。暫。時。の。命。を。取。り。て。永。く。汚。名。を。殘。さ。ん。と。り
 ハ。吾。今。此。不。自。害。し。て。諸。人。の。命。を。救。え。ん。ハ。遠。意。と。若。て。秀。吉。の。料理。を
 宜。しく。恃。ま。入。る。と。善。と。聆。く。相。柴。カ。友。使。也。地。不。歸。て。秀。吉。に。徑。家。に。返。着
 と。あ。ら。り。く。言。ま。す。荒。荒。ち。肝。不。稀。し。て。感。歎。し。し。つ。く。助。け。婦。さ。ん。と。理
 解。を。盡。し。て。幾。遭。り。説。き。ご。む。と。い。を。い。へ。ども。心。決。し。て。助。命。を。欲。せ。ば。これ

けよりて秀吉も是非なく徳家がのぞきに信せ。是塔の如くつとこれと
 東送つたる程に徳家のまづ國人なる。衆下中村の害と呼。秀吉が詞を
 得所を自害と志しと東これ々を。築城も今更嘆き無しと。後悔を
 ると限りぬく徳家ハ猶丸山へも。遠趣と粟くはく。然して羽柴は陸
 中へ長和と弟左衛門。野田左衛門村を法する。彼率們助命の盟文と
 徳家自害の檢使と成をせたる。時十月廿四日衆下出羽入道堂
 衆中村但馬守高成ハ高取城より自害す。依々本三弟左衛門恒在周
 防守。宗和日本之助三人ハ丸山の城より切腹す。野田長和の友人秀吉
 の陣より盟文とを檢使と誘て。直地小城中に立歸る。檢使ハ堀尾
 一柳志づくと入城する。徳家も中へも切腹の準備す。兩使と近へく
 禮のにおくり。その坐み着く勅断と。志津摩源を清に命じたる。時小吉

晴源を清に遣ひ入。徳家の藏小をいづく。天下に突檢する。これ念い
 たり。れよと秀吉より。内意なりぬといふ。を驗。徳家竟余とらちつと。と
 一命を弁る。とて。天下に名士とよぶ。秀吉が義嘆と被ふるの。その首
 級とともく。將軍へ突檢とけひ。玉をると。六生。世々の執快なり。敵小晴
 みの。勅断とわ。く。敵つと。い。あ。ふ。儀。式。攬。う。げ。肚。搔。刺。聲。を。か
 くれ。バ。志。津。摩。源。の。あ。ら。へ。太。刀。振。揚。て。丁。度。う。つ。ふ。あ。あ。り。に。怒。嘆。の。堪。か。さ
 く。や。め。り。り。ん。敵。う。の。さ。破。さ。り。し。る。徳。家。呵。て。む。と。敵。ぬ。を。恨。法。も。首。と
 澄。舒。なる。わ。ど。ふ。二。の。太。刀。敵。く。や。り。やく。に。徳。家。が。首。と。う。ち。あ。る。野。田
 長。和。友。人。して。首。を。清。で。捕。小。取。ぬ。檢。使。と。も。小。吉。野。田。の。秀。吉。が。陣。小
 参。候。して。ま。づ。徳。家。が。首。級。を。せ。り。次。に。衆。下。中。村。恒。在。依。々。本。三。弟。左。衛。門
 人。の。首。を。相。探。さ。す。秀。吉。これ。を。兼。執。す。並。般。安。土。へ。の。が。せ。り。も。仔細。に

言状をやりし信長公も經家が義心を添く感賞せしき首級を奪く
 葬つて又人の首の棄るに裁責得正しくするにたり。備前守小
 笠原守輝輝もして。高取城中の軍を出させ。美州の兵士のそれ
 小笠原もして。帰朝させ。亦國方の難人等の仇討する軍に八洲
 と者もせしきと食し。美州の介抱さしめ。故郷くく
 送歸しぬ。既小笠原も滅せし。同洲一國全く平治し。此歳ハ年
 をりれば一應凱陣もして。事定まりたるもの。而も南條小鴨使者と
 法もして。美州をそと。故へ運給せられぬ。る。急くと。東へ来る。紙
 荒茶も然バ。運給の便宜をそと。美州を締納べし。と。總軍四方を次
 に引行せ。伯州當て。運返す。それハ。香川。後河。也。春。高。取。の。援
 きて。し。と。安。美。を。進。發。出。雲。る。富。田。の。巷。に。懸。陣。し。諸。方。共。軍

勢を振くと。し。も。おの。く。自。國。の。強。弱。繁。く。加。え。る。急。亡。寡。り。し。が。
 時。日。を。と。と。と。と。と。と。取。城。危。急。な。り。と。九。月。の。末。伯。州。八。橋。小。軍。を。移。し。諸
 軍。を。待。つ。と。旬。餘。り。七。子。孫。統。と。なり。か。ど。も。羽。柴。が。大。軍。に。討。く。が。し。と
 大。事。を。執。り。進。ざ。り。し。が。高。取。城。を。さ。し。あ。り。と。行。候。の。若。ら。ち。駿
 急。十。月。廿。七。日。と。と。と。同。國。馬。野。一。陣。を。撤。け。行。候。若。ら。び。狂。來。り。と。明
 美。六。郎。と。目。女。八。日。高。取。落。城。大。將。經。家。自。害。に。及。ぶ。と。若。る。を。驗。發。哭。と
 る。あ。く。瀧。り。ぬ。く。今。ハ。進。退。偏。に。お。も。い。那。地。小。推。進。せ。經。家。が。吊。軍。せ
 する。お。り。と。諸。勢。に。出。陣。を。拘。る。機。會。う。と。ま。し。と。大。急。の。泣。伸。あり
 て。秀。吉。大。軍。を。探。出。して。當。國。へ。來。る。と。若。る。小。元。春。去。未。急。に。遠
 地。に。待。り。け。合。戦。つ。と。人。と。馬。野。山。に。懸。く。列。陣。し。一。遣。兵。七。千。有。餘。人
 死。を。畢。つ。と。七。相。漢。り。若。ら。と。小。笠。原。守。秀。若。ら。の。雲。後。を。出。して。こ。も。り

のりて視決めさせ自方の備軍に溜り申す。目今吉川が出陣ハ小
 勢なれども必死と定り、吾大軍小敵せんといひ、然も恐るべきの甚しきなり。
 被害軍と戦を争ひ、自軍の被害を減かさんなり。ふきより瑞陣と
 云れりといひ、終つては流氷に墮頭、家政進之出大將の令洞ハ
 然もなからず。羽衣岩倉へ急糧を、授贈りて人をも吉川元春を、取
 城の怒を多く、南條小幡を攻起人小防、我慥に、城を止し、然も
 胸にハあき、うろ己後降参するものあるや、けきバ、軍一々、岩倉羽衣
 の城へ急糧を、給ふせのひ。加勢の去とも、残させり、又城堅く防禦
 せり。然もそれバ自然と元春も、退陣と云き、理ありん。小幡にとも
 残し、玉も、南條小幡小力を、殺せ、相守るべく候り、と、保氣多く
 粟一申す、成又、彦右衛門、大少可なり。や、それ、家政推参なり。諸士の是日、

も待びて、弱軍の牙に過分なり。控て在るといふを、秀吉、台然小
 あらび、小六が、詞實に、至理あり、吾を、申す。斯と、かき、ひつるもの、を、よくこ
 そ、粟一、出たる、みれ、兩地に、急糧、運、贈、さす。然も、も、無計に、これを、料
 理バ、毛利の、技、塞、小、凝、守、する、急、軍、あ、ら、び、に、吉、川、の、諸、兵、士、倣、兵、糧、運
 贈、を、妨、ぐ、急、り、れ、バ、福、糧、の、緯、の、深、く、秘、め、お、さ、吾、大、軍、の、精、簡、り、たる、最
 なる。吉、川、勢、と、一、戦、と、云、き、披、露、する、さ、バ、元、春、も、亦、吾、倣、を、防、ぐ、準、儀
 を、さ、し、急、り。吾、も、頭、露、小、對、陣、して、吾、軍、威、を、知、り、し、左、右、の、隊、隙、に
 又、城、へ、急、糧、を、も、運、福、せ、し、と、謀、略、を、謀、合、せ、總、勢、四、方、有、餘、人、取、得、と
 軍、威、を、仕、り、し。凍、く、然、と、進、費、り、羽、衣、に、綿、縫、り、る、吉、川、の、家、に、攀、
 躰、里、本、陣、を、居、り、旗、馬、標、飄、く、翻、くと、吹、流、り。吉、川、元、春、が、陣、列、たる、馬、野
 山、を、下、に、視、仰、り、躍、龍、走、虎、の、勢、を、張、り、眼、下、の、敵、を、一、吞、み、み、に

系けい通と小せう列れつ陣じん一いつ々々色しきババ了りょう得とく小せう牌はい三さん吾われ川がわ勢せいも羽う柴しばが勇ゆう氣きに振まれ
 怖おそ氣けだちて發はつ動どう一いつ々々れれバ大だい將しやう元げん春しゆん諸しよ勢せいを懋まうまま人ひと陣じんの宵ゆう急きふ
 里さとしる。橋はし津つ川がわの橋はしを断たぎ裁き里さと繫つなぶぶ一いつ人ひとを貪あま恋こひく燒や拂はらふふが死し
 とと示あめぬ

繪本豊后勳功記五編卷之三終

